
送りオオカミ

有賀 神六

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

送りオオカミ

【Nコード】

N9643M

【作者名】

有賀 神六

【あらすじ】

これは、日本のちよっと昔の話です。

明治生まれの祖母が語ったちよっとした話。

これは、私の祖母に聞いた話です。
小さい頃山村に住んでいた。

そこには、週に何度か、山道を通って卵売りのおじいさんが卵を
売りに来ていた。

夜道を山道を通っておじいさんは、町から、卵を運んでいた。

寂しい気配、何とも言えない、嫌な感じがする度に

『オーン』『オーン』というオオカミの遠吠えが響くそうするとそ
の気配は、ピタッと収まった。

そうして、おじいさんは、町と村を往復する事が安心して出来た。
オオカミは、山で道に迷うとその人の前に現れ道を案内して去る
ということもした。

村人は、オオカミの住む洞穴を知っていて、子供が生まれると、
赤飯を炊いてお供えしたりもした。

決して、人に彼らは、害を及ぼすことは、なかったそうなの。

100年ほど昔の本当の話でした。

(後書き)

まあ、ちょっととしたメモ書きです。死んだ祖母が8月8日が誕生日でしたので。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9643m/>

送りオオカミ

2010年10月28日04時05分発行